



滝野川

もみじ小だより

令和2年 1月31日

校長 野尻史子

伝統とは革新の連続から

校長 野尻 史子

新しい年が明けて、早くも1ヶ月経ちました。昔から「一月は行く、二月は逃げる、三月は去る」と言いますが、年度末の三ヶ月間があつという間に過ぎていくのを今年も実感しています。

そうした中で、学校では、来年度の教育課程の編成に取りかかっています。昨年末に実施した学校評価アンケートへの回答を分析した結果も、来年度の計画に反映させて参ります。

滝野川もみじ小学校は、まだ開校三年目で、新たな伝統づくりが始まったばかりです。しかし、伝統とは革新の連続から生まれるものと捉えています。「例年どおり」でよいのか、もっとよりよい方法はないか、もっと充実した内容にならないか 等、全ては子供たちのよりよい成長を願って、教職員全員の知恵と工夫を働かせ、来年度の教育活動について考えています。子供たちにとって学びがいきがあり、教職員にとって働きがいきがあり、保護者や地域の皆さまにとって支援のしがいのある学校を目指して参ります。

どうぞ保護者の皆さまも、学校の取組にご理解いただき、ご協力をいただきますよう、よろしくお願い申し上げます。

学校評価 保護者アンケートへのご協力 ありがとうございます (回収率 84.5%)

昨年12月に実施した保護者アンケートの回収率は、昨年度の70.7%より13.8%増えて84.5%に増加しました。マークシート方式にしたこと、年間の教育活動についてA3版資料を添付したことにより増えたこともあると思われますが、学校への関心の高まりもあると考えています。

グラフの割合では、肯定的な回答が昨年度を下回っているように見えますが、回答実数では、昨年度より高い評価が増えている点については、学校の取組を評価していただいているものと受け止め感謝しております。

今回のアンケート結果から、肯定的な回答の実数も割合も昨年度を上回ったのは、以下の通りです。特に16「児童は学校に喜んで通っている」については、保護者89.7%、教員94.4%、児童82.7%が肯定的な回答をしていました。児童や教員、そして保護者の皆様が、新校を自分たちの学校と自認できるようになってきていることがうかがえます。これは大変喜ばしい結果ではありますが、一方で喜んで通っているとは言えない回答がある点については真摯に受け止め、状況をしっかり見極めて適切に対応して参ります。

5「相談に真摯に対応・配布文書が適切」 11「外国語活動の充実」 13「教育活動の公開」
15「家庭学習が適切」 16「児童が喜んで登校している」

肯定的な回答の割合が昨年を下回った項目の中でも、実数が伸びた項目は、4「公開授業の充実」、10「道徳教育の充実」、12「異年齢交流活動の充実」です。学校の取組について、一定のご理解をいただいていると思われるのですが、今後も積極的に推進していくことにより、さらに多くの皆様に取組のねらいや児童の活動の様子を知っていただけるようにして参ります。

一方で、学校がこれまで積極的に取り組んできたにもかかわらず、肯定的な評価が低かったのは次の3項目です。6「児童の安全確保」、9「ICTの活用」、18「SCの活用」

特に9と18は「わからない」の回答が100件を越え、周知・広報の不足によるものと反省しています。今年度は年に3回しか保護者会が設定されていなかったため、学校から保護者の皆様へ直接発信する機会が少なかったことにも、肯定的な回答が低かったこと、「わからない」への回答が多かったことの原因があると考え、来年度は保護者会の回数を増やしていくことを検討しています。

また、14「評価の工夫」、17「児童への適切な指導」が、否定的な回答が58件21%と43件16%と高かった点については、重く受け止め、現状を検証して今後の改善策を具体的に検討して参ります。

今後、いただいたアンケート結果やご意見を踏まえ、校内で改善策についてさらに検討し、新たに変更していくことについては、今年度中にお知らせしていく予定です。どうぞよろしくお願い申し上げます。